



本校
ホームページ
QRコード

令和4年度全国学力・学習状況調査報告について

教育活動も後半にさしかかりました。今回は、4月18日（月）に3年生を対象にして実施された〔全国学力・学習状況調査〕の結果に基づき、本校の生徒の学力の定着状況、その強みと弱みを分析し、検証した内容と今後の指導の方策等について、保護者の皆さまに報告します。本調査により、本校生徒の学力のすべてが測定できるものではありませんが、今後の子どもたちの学力向上の取り組みに活かしていきます。

国語

ほとんどの領域や観点で正答率が全国平均を上回る結果であり、あきらめずに問題に取り組む姿勢が定着してきているようです。生徒質問紙から見られる特徴として、『国語の勉強は大切だと思う』という割合は全国平均より高かったものの、『国語の勉強が好き』という割合は全国平均よりやや低く、全般的に『書く』ことが苦手と感じている生徒が多い状況でした。国語だけでなく全教科を通して、自分の考えを書き、他の人に説明をする取組の継続が必要です。

＜強み＞ 「話すこと・聞くこと（思考・判断・表現）」や「漢字を書く（知識・技能）」問について、本校の正答率は全国平均を上回りました。前者は、「聞き手の興味・関心を考慮すること」や「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」を意識して日常的に課題に取り組んだ成果であり、また後者は、継続的な反復練習が言語の習得につながっていると考えられます。

＜弱み＞ 「言葉の特徴や使い方に関する事項（知識・技能）」について、全国の正答率を下回り、言葉の意味を正しく理解できていない結果となりました。また、記述式の問いでの無回答率（何も解答しない問題の割合）は、全国平均を下回るものの、他の問いの無回答率と比較するとやや高い割合となりました。

《方策》

- 教材やテーマ・条件等を工夫し、「書く」活動を継続的・段階的に教科の枠をこえて設定します。また、書いた文章を互いに読み合い、自分の表現に役立てられるよう交流場を増やします。
- 新しい課題にも意欲的に取り組めるよう、基礎学力の充実と、伝えたい・聞きたいという関わりの態度を育む学習課題・学習形態を工夫していきます。

数 学

多くの領域や観点で、正答率が全国平均を上回る結果であり、あきらめずに問題に取り組む姿勢が定着してきているようです。生徒質問紙から見られる特徴として、『数学の勉強は大切だと思う』という割合は全国平均より高かったものの、『数学の勉強が好き』という割合は全国平均よりやや低い状況でした。今後、さらに数学の面白さや楽しさを感じさせられるような取組が求められます。

<強み> 「数と式（知識・技能）」や「データの活用（知識・技能）」という問いにおいて、本校の正答率は全国平均を上回りました。また、「図形」「関数」についての問いでも全国平均を上回っています。これは、教師と生徒の間で、また生徒と生徒の間で、対話を重ねながら丁寧に問題解決を試みようとする取組の成果であると考えています。

<弱み> 「数と式（思考・判断・表現）」や「図形（思考・判断・表現）」の問いで、無回答率が高い状況でした。問題の内容を理解すること、どうしてその考え方をを使うのか説明すること等がやや苦手なようです。

《方策》

- 学習内容が「分かること」は教科の面白さなどにもつながると考えることから、基礎の定着を図るなど指導の工夫・改善に努めていきます。
- 自分の考えを記述するとともに、どうして、その考え方を使ったのか、用語とともに意味を確認する学習活動を進めていきます。

理 科

多くの領域や観点で、正答率が全国平均を上回る結果であり、あきらめずに問題に取り組む姿勢が定着してきているようです。生徒質問紙から見られる特徴として、『理科の勉強は大切だと思う』『理科の勉強が好き』という割合は、ともに全国平均より高い状況にあり、理科に対して意欲的な姿がうかがえました。

<強み> 「エネルギーを柱とする領域（思考・判断・表現）」や「粒子を柱とする領域（知識・技能）」の問いにおいて、本校の正答率は全国平均を上回る結果となりました。

このことから、身のまわりにある現象や科学技術と学習内容を結びつけて考える力が定着していると考えます。

また、ほとんどの設問で無回答率は全国平均を下回っていて、あきらめずに問題に取り組むことができました。

<弱み> 「エネルギーを柱とする領域（知識・技能）〔設問1(1)〕」や「地球を柱とする領域（思考・判断・表現）〔設問6(3)〕」などの問いで本校の正答率は全国平均より低い状況でした。問題の内容を把握し、自身の知識を適切に活用・表現する力を育成する必要があります。

《方策》

- 知識の定着やその知識を適切に活用することができるよう、教科や家庭学習において繰り返し学習を継続実施します。
- 分析や考察などを行うにあたり、自分の考えを文字や言葉で表現する機会（場面）を意図的に持つなど、相手に「適切に」「正確に」伝える活動を取り入れていきます。